

世界各国で醸されるサケ・Sakéが、ずいぶん話題になる今日この頃。きた産業はすでに10年前、「世界のSAKÉ」に注目、2010年のFOODEXで「世界のSAKÉ」を展示していました。それから10年、サケの生産国は9か国から15か国に、サケ生産者は25社から61社に増えました。2020年、きた産業は、ふたたび世界のSAKÉをFOODEXで展示。10年の変化を体感してください！
(text=Sienna K. Emiri + T. Kita)

Sienna's Watching 2010

ちょうど10年前の「酒うつわ研究」2010年2月号。「世界のサケ・ショーチュー・ウメシユ」をウォッチしました。

FOODEX JAPAN 2010

ちょうど10年前の「FOODEX 2010」の当社のブース。「世界のサケ」を展示しました。



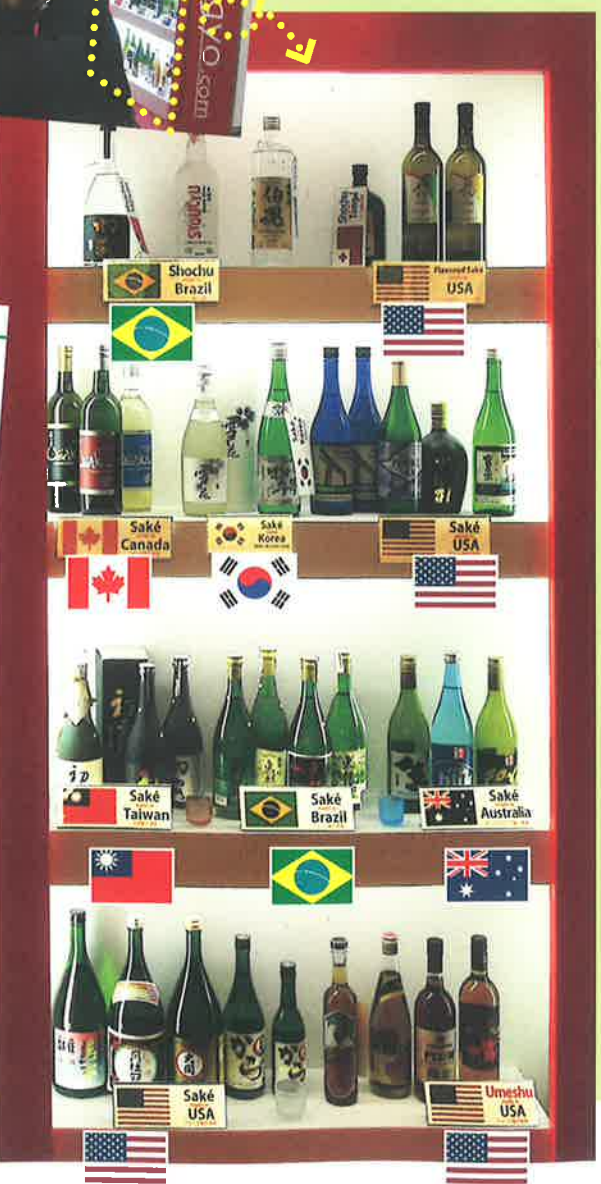
@2010年



サケ工場 22 + マイクロ・サケ醸造所 3 = 25のサケ生産者

2010年のFOODEXで「世界のサケ」をテーマに、アメリカ、ブラジル、韓国、オーストラリアなどのSaké Factory (清酒工場) の製品を集めて展示。当時は「クラフト・サケ」という概念はありませんでしたが、小規模生産者のサケとしてカナダの Artisan Sake Maker と台湾の霧峰農会酒莊の製品も展示しました。当時は Shochu (本格焼酎) と Umeshu (梅酒) も海外生産に取り組み事例が増えていて、ニュージーランド、ブラジル、トンガなどの芋焼酎、アメリカ、台湾などの梅酒も展示しました。

※2010年展示会時点の資料で、タイ(「忍」)を含めた9か国としていましたが、2009年までに生産終了していたようです。一方、2010年2月にサケ生産を開始したノルウェー(「Nagne Ø」)を掲載していなかったため、本資料では修正した9か国の国旗を掲載としています。



The 45th International Food and Beverage Exhibition
FOODEX JAPAN 2020
第45回 国際食品・飲料展

今年もFOODEX (国際食品飲料展) に出展します。
3月10日(火) ~ 13日(金)、幕張メッセ (小間番号 8C-35)
でお会いしましょう!

FOODEXプレビュー・展示テーマ#1
「世界のSAKÉ」 again

@2020年



サケ工場 28 + クラフト・サケ醸造所 33 = 61のサケ生産者

まさに10年ひと昔。左ページ(10年前)と比べて、世界のSAKÉはこんなに増えました。カナダとアメリカで始まった小規模サケ醸造所は、2010年代、「クラフト・サケ醸造所」としてまず北米に、ついでヨーロッパやオセアニアなどに広がり、現在その数はSaké Factoryより多くなりました。(7ページ「お酒スタディスティックス」参照) 一番最近の事例では、2019年末に、パリとホルルルで開業しています。「クラフト・サケ」増加の背景には、ビール発の「クラフト」ブームと、世界的な「日本食」ブームがあります。サケ・Sakéは、かつて海外でも「日本人・日系人の飲み物」でしたが、いまや「多くの欧米人・アジア人たちが認知するアルコール飲料」になりました。FOODEXで世界のSAKÉを展示、試飲も行います。ぜひ、ご来場ください。



記号とキャプション ★ 2010年以降にできたサケブランド、サケ生産を始めた国 ■ クラフト・サケ ● Saké Factory (=清酒工場) ※クラフトが清酒工場が区分が難しい場合があるが、当社の判断で区分
アルファベットは所在国 数字は創業年度 (V) ヴァーチャル登場: ネットなどから取り込んだ画像
E 当社の「酒屋エビキュリアン」で購入可能 (16ページ参照) (K) キャップやびんを当社が供給

番外編: ちょっと意外な海外のサケ
TYKU Sake: アメリカのサケブランド、サケは日本製 NERO Sake: イタリア製、米を原料にしているためSAKEと表示しているがベルモットに近い CHOYA Sake: 梅酒のチョーヤのサケブランド、日本製のサケをドイツでびん詰め HEAVEN Sake: フランスのサケブランド、サケは日本製 ENTER Sake: 輸入元所在地はルクセンブルグで英国を中心に販売されるサケブランド、サケは日本製